

〈ホンモロコ資源管理推進事業〉 事業費:8,597 千円

(委託先:(公財)滋賀県水産振興協会)

～事業の背景～

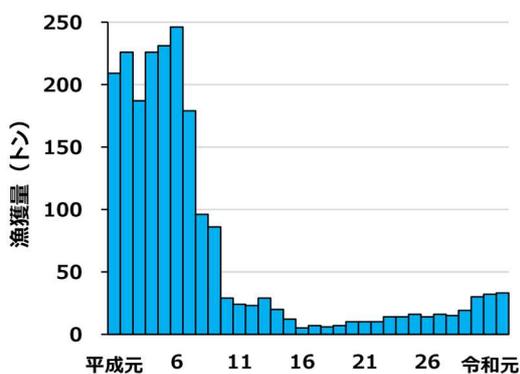
ホンモロコは琵琶湖固有種で、コイ科の魚の中でも特に美味とされ、琵琶湖の名物として欠くことのできない魚種です。しかし、300 トン近くあった漁獲量は平成7年以降急激に減少し、平成16年には5トンまで落ち込みました。そのため、天然水域から採卵した親魚を用いて育てた稚魚を大量に放流してホンモロコの資源回復のための実証事業を平成18年度から実施してきたところ、最近では琵琶湖の各地でたくさんの産卵が確認できるようになり、R2の漁獲量は33トンまで回復してきました。

そこで、これまでの大量放流中心の取組みから、資源状況に応じて漁獲制限などにより柔軟に資源対策を実施する資源管理型漁業を主体とした取組みへ移行することとしました。

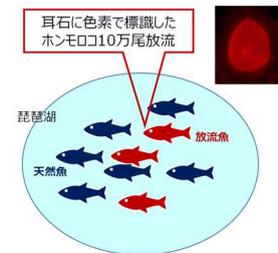
～事業の内容～

- ① 産卵場で採集した天然卵から親魚(F0)を養成(遺伝的多様性に配慮)
- ② F0親魚から放流種苗を生産するために親魚(F1)を生産
- ③ F1親魚から耳石に標識を着けた種苗を生産
- ④ ホンモロコの資源尾数推定に必要な10万尾を琵琶湖へ放流
- ⑤ 漁獲されたホンモロコから標識魚の割合を調べ、資源尾数を推定

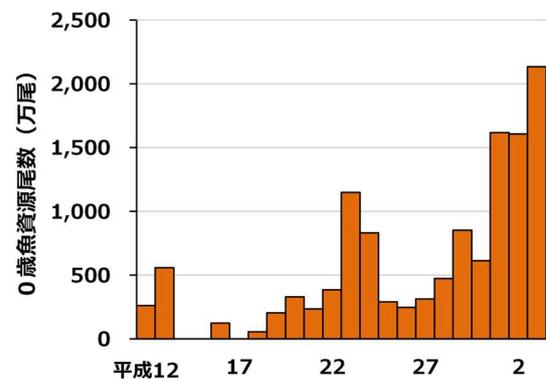
➡ 毎年、資源状況を把握してその状況により適切な資源管理方法を検討



【琵琶湖におけるホンモロコ漁獲量の推移】



天然魚と標識放流魚との比率から資源尾数を推定



【ホンモロコ資源尾数の推定方法とその推移】